

くすやま美紀(樟山みき)活動報告



2016, 2, 18 NO, 183

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170
区議会控室 3312-2111(内)2319

あんさんぶる荻窪と荻窪税務署の財産交換 無責任な区長の失政が浮き彫りに



2月12日、本会議場

第一回区議会定例会の代表質問で、あんさんぶる荻窪と荻窪税務署の財産交換について取り上げ、田中区長が財務省にあてた要望書について、経過を明らかにするよう求めました。

要望書は「カラ手形」 あんさんぶる荻窪が犠牲に

要望書とは、田中区長が、荻窪駅周辺整備のために税務署を取り込もうとして、平成23年から建て替え工事に入る予定だった荻窪税務署の工事を休止するよう財務省に申し入れていたものです。こうした要望を出していたことは、これまで議会に一切報告されてきませんでした。

区長は、計画や経過について詳細には答えませんでした。国から平成25年7月に「もうこれ以上税務署の建替えを先延ばしできない」と詰められ、その2か月後に、あんさんぶる荻窪の財産交換の提示をしたことを認めました。

区長が国に勝手に約束したものの、当初から移転先のあてはなく、要望書の中身は「カラ手形」

田中区長が2010年(平成22年)に財務省あてに提出した要望書 (抜粋)

「荻窪駅周辺整備にあたり、区民の利便性向上のため、国税・都税・区税の行政機能の集約化を図ることを検討し、平成26年度に供用開始できるような必要な施設整備を進めたいと考えています。その際、税務署としての必要な機能を確保し、国に賃料負担が発生しない方法といたします。そのためにも、荻窪税務署の建替工事の当分の間一時休止し、・・・まちづくりの進展を注視していただきますよう・・・」

であり、その償いとして、あんさんぶる荻窪を国に差し出すに至った経過がうきぼりになりました。

要望書には「特養」という言葉はひとつもなく、「大規模特養ホーム建設のため」としてきた理由は後付けだけということは明白です。しかし、区長は「大規模特養を立てるためには財産交換が唯一の手段」と強弁し、経過を議会に説明せず隠し続けてきた責任や、住民への謝罪の言葉はありませんでした。

党派を超えて「継続審議」をよびかける

財産交換の議案は、2月24日の総務財政委員会に審議されます。質問の最後に「これまで議会に報告されてこなかったことがあきらかになり検証が必要。慎重な審議を行うためにも委員会に継続して議論していきましょう」と全議員に向けて呼びかけました。

区長が提出した文書を示し追及 議会軽視、カラ手形の責任には言及せず

●(質問) くすやま

・ 税務署に提供する施設は、どこに予定していたのか。区がビルを建設する予定だったのか。
・ 約束後、どう取り組んできたのか。履行できない結果について国とのやり取りは？

・ 国から頼まれてもいないのに、なぜ「賃料無料」にするのか。

・ こんな重大な約束を国にしなから、なぜ議会に報告せず隠し続けてきたのか。無責任と思わないのか。

・ 結局、税務署の移転先のめどが立たず、窮地に追い込まれ、あんさんぶる荻窪を国に差し出すということに至ったのではないのか。

・ 「カラ手形」を切ったことについて責任はないと考えているのか。

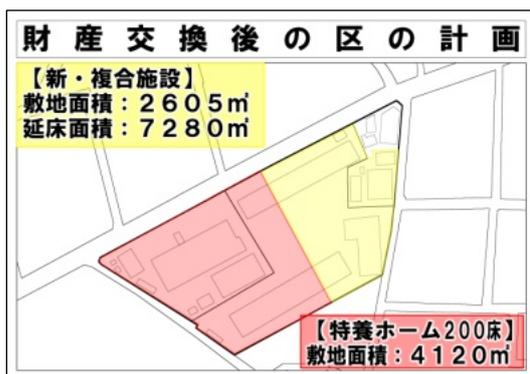
●(答弁) 田中区長

民間ビルの活用など様々な手法を検討したが、東日本大震災や方南町住宅問題などの対応に追われ、残念ながら国への具体的な提案を行うに至らなかった。

平成25年7月、国から首都直下地震の発生危機が高まる中で、耐震上の課題がある荻窪税務署の建替えをもうこれ以上先延ばしできないと話があった。当時、区では、特養ホーム整備のための大規模用地確保が懸案事項になっており、区の特養ホーム整備のための大規模用地確保と老朽化した荻窪税務署の効率的・効果的な建て替えという二つの課題を同時に解決する方策として、同年9月末、国に、財産交換を提案した。

提案

財産交換しなくても 大規模特養ホーム整備は可能



区の方針では、財産交換した用地の約40%を使用して「複合施設」を建設するため、200名規模の大規模特養ホームは残りの60%程度の用地で整備される予定。複合施設の建設だけで約40億円にもなるため、巨額の税金無駄遣いとなる。



国は、隣地に税務署を建て替え場合、延べ床面積が3,200㎡必要としている。区が進める「複合施設」は延べ床面積5,537㎡(1~4階)であり、税務署は収まる規模となっている。さらに、昨年、国は国有地に特養ホーム整備を進める際に、賃料負担を軽減する優遇貸出方針を示しており、安価で土地を活用できる。

区議団の財務省への聞き取りでは、財産交換をしなかった場合、隣地に税務署を建て替え、現在地は区に貸し出すことも可能という意向を示しています。この方法に転換すれば、財産交換しなくても、あんさんぶる荻窪を廃止することなく、大規模特養ホーム整備は可能だと提案しました。さらに、財務省は「地元理解は重要」とし、区に対し、地元の理解を進めてほしいと要望しています。地元町会や商店会まちぐるみで反対運動がおこるなか、計画の正当性が問われています。